

そんなに東京さええのが？

～大手町ブランドについて改めて考える～

JANOG19 @ 沖縄

# メンバーのご紹介

- 今回は、それぞれの普段の立場を超えて議論を行います。そのため、パネラーのバックボーンに関しては一切考慮しておりません。
- Program Producer：今井 祐二氏（B/山羊）
- 司会者：許 先明（AB/蟹）
- 東京に集中している方が望ましいという立場で議論するメンバー
  - 菊池 豊氏（O/水瓶）
  - 仲西 亮子氏（AB/乙女）
- 地域に分散している方が望ましいという立場で議論するメンバー
  - 近藤 邦昭氏（A/蠍）
  - 民田 雅人氏（A/天秤）

# プログラムの流れ

- 導入

- 大手町の（とても）簡単な歴史

- 議論 1 :

**大手町とは何か？なぜ大手町なのか？**

- 議論 2 :

**大手町の機能は分散可能か？**

# 日本のInternet=大手町？

- 日本におけるInternetにおいて東京都千代田区大手町が果たしている役割は非常に大きい
  - 国内・国際キャリアが多い
  - 複数のIXが存在
  - 多数のISPが接続
  - ハウジングスペースも多数ある
- 日本のインターネットにおける中心の役割を担っている
  - トラフィックの過半数が東京／大手町に流れ込む現実
  - 事実として一極集中傾向がある

# 大手町の簡単な歴史-1-

- 昔まだインターネットが日本に根付いていなかった頃
- 様々な研究機関がコンピュータ通信を研究していた
  - しかしまだ、電話事業全盛期であり、通信=パソ通/uucp
  - 創生期の頃、専用線は非常に高かった
- 大学間通信をTCP/IPで行う実験が開始された頃
  - 電話会社が多数存在。しかしISPはまだ無かった
    - 電電公社、KDD、日本テレコム、ITJ、等々...
  - 大学間通信インフラのための機器室は、年に1度停電があった
    - 東京大学や東京工業大学、慶応大学等
    - そもそもUUCPが中心で、9600bpsは高速だった
    - TCP/IPでの通信がようやく日本で使われ始めた

# 大手町の簡単な歴史-2-

- このころ、様々な問題があった
  - 電子メールのやり取りと郵政省問題
  - 国際接続問題
  - ドメイン名空間やIPアドレス問題
- TCP/IP Networkを日本に広げていくためには
  - とにかく24h/365days稼働のネットワークバックボーンが必要だった
  - 大学設備では、法定点検でどうしても年1日止まる
  - ISPの芽が出始めてきた

# 大手町の簡単な歴史-3-

- 当然、ISPサービスを立ち上げるにも「無停止」環境が必要
  - 当時これらの環境はCarrierしか持っていなかった
  - 実験は東京中心に行われていた
    - 専用線は高価だった
- 無停止環境をInternetの為に提供「してくれた」のはKDD(当時)のみだった
  - いわゆる大手町赤煉瓦ビル（もしくはkotemachiビル）
  - 電電公社は場所貸しなんて考えてくれなかった
- Internetとしてインフラを作るには国際接続が必要だった
  - 当時回線などを提供できたのはKDD(当時)のみだった
    - それでも実験名目だった

# 大手町の簡単な歴史-4-

- ISPの成立、IXの成立とフェーズ変更
  - 1994年くらいからいわゆるDialUp ISPが勃興する
  - ISP間接続のために、神保町にNSPIXPが立ち上がる
  - 日本のInternetが拡大する
  - NSPIXPでは規模が足りなくなる
    - 1.5Mbps縛り、Full Meshな接続ポリシー
  - NSPIXP-2(現在のDIX-ie)が設立
  - ISPの成長と合従連衡、大統合時代へ
  - 各種天災を目の当たりにし、DRを考えNSPIXP-3設立へ

**あとはみなさんご存じの通りです**

# 要するに

- 大手町特にKDDI大手町ビルは、時代の要請と状況によって「一番最初に日本のInternetの拠点」となった場所である
- 最初に拠点となったため、多数のISP等がそこにすぎ混んできた
- だから、大手町が、「少なくとも黎明期は」便利だった

ということなのです。